

令和元年度
(平成31年度)

学校評価結果
(年度末評価)

報告書

令和元年度（平成31年度）
広島県立加計高等学校芸北分校

目 次

- 1 ページ： 「平成 31 年度自己評価シート（年度末評価）」
- 2 ページ： 「平成 31 年度自己評価シート（年度末評価）」
- 3 ページ： 「平成 31 年度自己評価シート（年度末評価まとめ）」
- 4 ページ： 「平成 31 年度学校関係者評価シート（年度末評価）」

令和元年度自己評価シート（年度末評価）

校番	020	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	工藤宏一	全日制	芸北分校
----	-----	-----	------------	------	------	-----	------

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
(1) 『知・徳・体』 バランスのとれた生徒を育てる							
■授業を大切にし、授業に真剣に取り組むことができる。	授業満足度 (%)	93	95	93	B	学習意欲に乏しい生徒が一部入学をしている実態があるため	教務
■自らを律し、基礎的生活習慣の身に付けさせる。	頭髮・服装指導や特別な指導の対象者の件数	10	0	10	C	前年度と比較して、件数が同じであるため	生徒指導
■部活動の活性化を図り、集団の中で責任ある行動をとらせる。	部活動の加入率 (%)	100	100	100	A	今年度も全生徒全加入を達成しているため	
■高等学校間の連携推進事業の取組を通して、異文化を持つ学校と協働することで、自らの学校に誇りを持たせる。	取組後のアンケート (%)	92.5	95	90	B	目標値を概ね達成することができたため	生徒指導 生徒会
■業務改善を意識した働き方を推進することで生徒と向き合う時間を確保することができる。	取組後のアンケート (%)	—	90	90	A	各主任を中心に業務改善に取り組むことで生徒と向き合う時間が確保できていたため。	教務

【評価結果の分析】

- 特別な指導の内容は、10件中7件が「携帯電話に関するもの」2件が「喫煙」1件が「金品強要」1件が「占有離脱物横領」
- 加計高校（本校）の生徒会と実施した「リーダー研修会」に関するアンケートには概ね良好

【今後の改善方策】

- 1年生は「基礎的な生活習慣」、2年生には「自らを律する情緒」の育成、定着を図る
- 部活動の加入率を上昇させるために、弾力的な部活動運営（仮入部期間の取り扱い、休養日の設定など）を検討する
- 活動の目的、計画を明確にした取り組み、取り組みを学校行事に反映させる評価結果の分析

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
(2) 地域を愛し、地域から愛される生徒を育てる							
■生徒指導部を中心として全教職員が温度差なく同じ方針で指導できる体制を確立する。	生徒アンケート (%)	83.5	100	80.0	B	目標値を概ね達成することができたため	生徒指導
■学校生活に喜びを感じる生徒を増やし、学校不適応を減少させることができる。	生徒の平均欠席日数	2.8	2以下	1.4	B	学校不適応・怠学による	保健

<p>■保小中高の異年齢集団での教育を充実させ、自己存在感を醸成し、キャリア教育の推進を図ることができる。</p>	<p>連携した行事・会議の回数(回)</p>	27	27	27	A	<p>目標を達成するとともに、内容の充実が図られたため。</p>	教務
<p>■連携型中高一貫校として、芸北中学校との行事・部活動を充実させることができる。</p>	<p>連携した行事・部活動の回数(回)</p>	96	93以上	93	B	<p>目標値は達成したが業務改善の一環として会議等の内容を合理化し、回数を減らすなどの見直しがあるため。</p>	教務

【評価結果の分析】

- 学校不適応によるものや怠学による欠席
- 中途退学者1名、転学者2名

【今後の改善方策】

- 組織的に取組める体制をより一層整備し、個に応じたサポートを充実させる

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
(3) 真の進路希望の実現に向けて真摯に取り組む生徒を育てる							
<p>■全教職員がキャリア教育の概念を共有し、生徒の真の進路希望の実現に向けて、保護者と協働することができる。</p>	<p>進路検討会、生徒との面談、三者懇談(回)</p>	20	15	22	A	<p>生徒の面談や三者懇談の内容について、状況に応じて定期的実施した。進路検討会議の中で、情報共有することができた。</p>	進路
<p>■地域社会における自らの役割について考え、その内容を論理的に議論するための、コミュニケーション能力を高めることができる。</p>	<p>学習座談会(回)</p>	10	12	11	A	<p>サマーセミナーや高三0学期、またインターンシップなどを通じて、コミュニケーション能力の重要性について学ぶ機会を提供することができた。</p>	進路
<p>■生徒が、学力の向上について自ら手応えを感じながら、確かな学力向上を図ることができる。</p>	<p>1年生(1月)2年生(1月)の模試の偏差値(国・数・英)45以上の生徒の人数の割合(%)</p>	10	25	20	B	<p>1年生28名中6名、2年生17名中3名</p>	進路
<p>■生徒達の真の進路希望を実現する。</p>	<p>進路希望(第1希望・第2希望)達成率(%)</p>	97	95	93	B	<p>【進路決定状況】 四年制大学7名、短期大学2名、専門学校・専修学校15名、公務員3名、一般就職4名 達成率については、現在結果待ちの生徒、卒業後の海外留学希望者が進路希望を達成していないため。</p>	進路

【評価結果の分析】

- 3年生の進路指導においてチューター制を採用し、全教職員で対応することができた。

【今後の改善方策】

- 最初から一つの進路に絞り込むことも重要であるが、進路選択の幅を広めた中から絞り込むことができるよう指導する。

令和元年度自己評価シート（年度末評価まとめ）

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校芸北分校	校長氏名	工藤 宏一	全日制	分校
----	----	-----	----------------	------	-------	-----	----

1 評価結果の分析

- (1) 学校経営目標1：○特別な指導の内容は、10件中7件が「携帯電話に関するもの」、2件が「喫煙」、1件が「金品強要」、1件が「占有離脱物横領」である。
○加計高校（本校）の生徒会と実施した「リーダー研修会」に関するアンケートには概ね良好である。
- (2) 学校経営目標2：○学校不適應によるものや怠学による欠席が目立っている。
○中途退学者1名、転学者2名である。
- (3) 学校経営目標3：○3年生の進路指導においてチューター性を採用し、全教職員で対応することができた。

2 今後の改善方策

- (1) 学校経営目標1：○1年生は「基礎的な生活習慣」、2年生には「自らを律する情緒」の育成、定着を図る。
○部活動の加入率を上昇させるために、弾力的な部活動運営（仮入部期間の取り扱い、休養日の設定など）を検討する。
○活動の目的、計画を明確にした取り組み、取り組みを学校行事に反映させる評価結果の分析を行う。
- (2) 学校経営目標2：○組織的に取組める体制をより一層整備し、個に応じたサポートを充実させる。
- (3) 学校経営目標3：○最初から一つの進路に絞り込むことも重要であるが、進路選択の幅を広めた中から絞り込むことができるよう指導する。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策（学校関係者評価実施後に記入する。）

○令和2年度入学生においても、連携中学校以外の生徒が半数以上となり、学校全体でも芸北中学出身以外の生徒が60%になるなど、これまで以上に生徒一人一人に応じた細かな指導が必要な実態となっている。特に学習面では、基礎学力の定着や学習意欲に課題を持ったまま入学している生徒もおり、教室内習熟度指導を行い、「学び直し」を考慮した学習指導を組織的に継続して推進していく必要がある。

○広範囲の地域からの入学生が年々増加しており、「雄学館」男子入寮生徒は37名となり満員状態である。また、今年度から「みなこ館」女子寮が完成し7名（10名定員）の生徒が入寮している。その他、地域の民家へ女子生徒4名が下宿をしている。雄学館、みなこ館とも地域の方の絶大なる協力で運営されている。地元住民の方の期待に応えることができるよう生徒の指導を行う。

○芸北小・中学校からは、芸北分校との連携により、生徒が「良い刺激を受けている」さらに「もっと高校生と協働できる活動を増やしていきたい」という意見もあり、高校生が模範となり、小中学生が身近な憧れの存在として目標となるような関係性を合同行事等だけでなく、日常的に交流が行えるように新たな仕組みづくりを図っていく。学力の向上については、小中学校と共通の課題として捉えており、中高の連携だけでなく、小学校との連携を深めて改善していくことが大きな課題である。

○今後も芸北地域出身者以外の生徒が増加することが予測されるなか、これまでの経験や固定観念に捉われず、広い視野を持って「学びの変革」を進めていくことが必要である。更に、今後どれだけ芸北出身の生徒が減少しても、これまで培ってきた「芸北教育の精神」・「芸分魂」を受け継ぎ「芸北分校」「芸北教育」を存続・発展させていくという強い意志を分校長自らが発信していくことが重大な責務であると考えている。

令和元年度学校関係者評価シート(年度末評価)

令和 2 年 3 月 25 日

校番	20	学校名	加計高等学校 芸北分校	校長氏名	工藤宏一	(全)定・通	本(分)
----	----	-----	-------------	------	------	--------	------

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な生徒が存在する中で、個々の生徒の実態に応じた指導がなされるよう、目標・指標・計画等が設定されていると思う。 ・全体的に適切になされている。
目標の達成状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業満足度が 90%以上を超えているので「A」とする。
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、生徒指導等、情熱を持って取り組んでいただいていると思う。 ・チューター制の採用など具体的手立てが工夫されている。 ・中学校との連携や生徒への指導について日頃から取り組むことができている。 ・近年、整理・整頓・掃除ができない生徒が増加しているように思う。日頃の積み重ねが大事なので手抜きすることなく行うように指導して欲しい。 ・携帯電話の使用は田舎の学校なので必要だと思う。ただし、使用に関して生活を後回しにしての使用はいかがなものかと思う。引き続き、生徒の行動を見守っていただきたい。
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中途退学者があるのは残念ですが教職員の皆さんが生徒に向き合って意識統一されていると思う。 ・芸北地域の生徒が毎年減少し、他地域からの生徒が増加する中で、環境の違いもあり、生徒も不安で一杯だと思います。生徒指導も多様となりますが積極的に生徒と向き合い、より良い方向にお導きください。
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化する生徒の受け入れに対する取組や進路保障への取組について期待します。 ・小規模の強みでもある生徒と対話を通じ個々の良い点を見い出し、適切な助言により将来につながる進路指導をお願いします。 ・芸北中学校の生徒数の減少に伴い生徒数の確保が大変だと思う。ただ、全国的に少子化なので仕方ない点が多い。
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実態、生徒の実態等を踏まえ、芸北分校に求められる教育をしっかりと取り組んでいると思う。 ・教職員の皆様には日々、同じ目的意識を持って全員が一体となって努力しておられる姿に敬意を表します。芸北地域の生徒が減少する中で他地域から入学する生徒に頼って学校運営をすることになります。田舎の小規模校としての特色ある学校作りを卒業する生徒や保護者から喜んでいただけることが学校の発展につながるのだと思います。そのために地域もできる限り協力をしますのでより一層の指導をお願いいたします。

※評価 A・・・とても適切である B・・・概ね適切である C・・・あまり適切でない D・・・まったく適切でない N・・・判定できない